

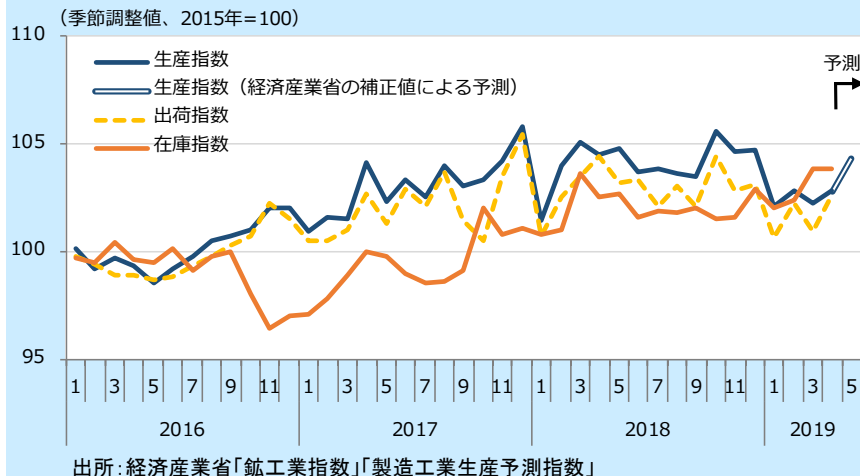
日本：鉱工業生産指数（2019年4月）

—輸出の減少基調を背景に、生産指数は低調な推移が継続—

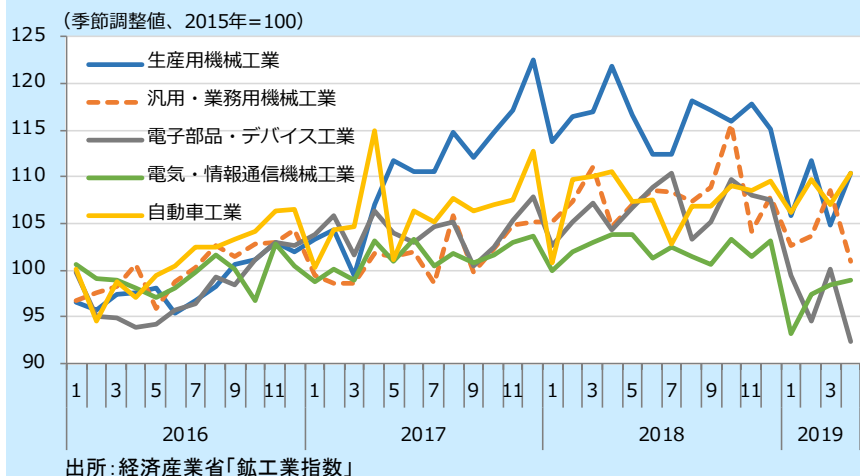
MRI Daily Economic Points

June 3, 2019

鉱工業指数（生産・出荷・在庫）



変動への寄与が大きい業種の生産指数



評価ポイント

今回の結果

- 4月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比+0.6%と、2ヶ月ぶりに上昇した。
- 業種別にみると、15業種のうち10業種が上昇した。生産に占めるウェイトが大きい自動車工業（季調済前月比+3.2%）が上昇し、全体を押し上げた。生産用機械工業（同+5.3%）は、半導体製造装置の需要減少などにより均してみれば低下傾向にあるが、前月に大幅に低下した反動により、高めの伸びとなった。
- 一方、電子部品・デバイス工業（同▲7.7%）は14年4月以来の低い水準となった。世界的な半導体関連需要の調整が電子部品・デバイスの生産を下押ししている。また、汎用・業務用機械工業（同▲7.1%）も、中国などアジア向け輸出の減少に加え、在庫調整圧力の強まりも生産抑制要因となったとみられる。
- 製造工業生産予測調査によると、19年5月の生産は季調済前月比+5.6%と見込まれている。予測値に対する実績値の平均的なズレを経済産業省が補正した値も同+1.5%程度であり、5月の生産は持ち直しが予想される。

基調判断と今後の流れ

- 生産指数は、中国などアジア向け輸出の減少や世界的な半導体関連需要の調整を背景に、18年に比べて低い水準で推移している。
- 先行きの生産指数は、国内向けでは消費税増税前の駆け込み生産が予想されるものの、海外向けでは5月10日に実施された米国の対中制裁関税の引上げなどによる中国経済の減速を背景に、中国向けを中心に減少が予想されることから、低調な推移となろう。
- 生産の下振れリスクとしては、①米中貿易摩擦の激化を背景とする世界経済の一段の減速や、②輸出減少の波及による国内需要の悪化、③日米物品貿易協定（TAG）の交渉による対米輸出環境の悪化、が挙げられる。